

論文審査要旨

報告番号	*甲 第 6 号	論文提出者氏名	清野 智子		
		職 名	氏 名		
	審査員主査	東京工芸大学	准教授	野口 靖	印
	審査委員	東京藝術大学	教授	本郷 寛	印
	審査委員	東京工芸大学	教授	石川 健次	印
	審査委員	東京工芸大学	教授	平山 敬二	印
	審査委員	東京工芸大学	教授	李 容旭	印

論文審査要旨(2000字程度)

東京工芸大学大学院芸術学研究科博士学位申請者・清野智子博士学位論文、「障害者問題を社会へ広く位置づける芸術 - 障害の社会モデルの実践として」は、障害者に表現主題を置く人間学的芸術の社会的意義を論じたものである。

申請者は、「芸術とは社会変革である」という芸術概念を持つ芸術家として、また知的障害者の伯母と深く関わった一人の人間として、2001年から約15年間に渡り、健常者の価値観で構成された偏った社会規範や障害定義をパラダイム・シフトへ導くための芸術活動を実践し、本論文において、障害者問題を社会へ広く位置づけるための具体的な芸術表現とそれを担う芸術家のあり方を提示している。

障害者問題を社会へ広く位置づける芸術は、現社会における不可視化された障害者差別や障害当事者の抱える問題を多くの人々と共有・再考し、社会を変革に導く目的において、「障害の医学モデル」ではなく「障害の社会モデル」の立場に立ち、具体的な障害者問題を率先的にデモンストレーションする役割を担うべきであると論じている。また、その内在的主题には、不可視化された差別を可視化するため・障害当事者の生きづらさを代弁するため・人類の根源的な問題に対する問い直しを図るための社会的効能を有するとも述べている。そして、この芸術は、これまでの差別政策とは一線を画し、差別が社会に顕在化される前に、障害者に無関心・差別的な人々の内的偏見抑制動機に揺さぶりをかけ、受動的に障害者問題に触れ、能動的にその内在的主题について思考を巡らす機会を与える唯一の独立的有利性を持つ「自己覚知政策」として、「美」的な社会を形成することを目指す結論づけている。

なお、論文と共に、本研究における作品である『健康規範眼鏡あります。』（映像作品）、『Delayed Echolalia』（パブリック・インスタレーション）、『Children of Down's Syndrome』（彫刻）、『類感魔法』（彫刻）、『Have a nice day.』（写真・テキスト）の審査を行った。

■審査経過

本学位申請論文は平成27年10月23日に提出され、同年11月12日に設置された上記5名による学位審査委員会が平成28年2月15日まで審査に当たった。学位審査委員会は、提出論文に基づき各審査委員による個別の審査を経たのち、平成28年2月5日に開催された学位審査委員会において全委員出席のもとに最終的な判断を取りまとめた。

審査委員会による最終判定に先立ち、学位審査の公正を期すべく申請者には平成28年2月5日午前10時より

論文提出者氏名	清野 智子
---------	-------

論文審査要旨 (続き)

1時間半にわたる博士学位公開審査会(公聴会)内での論文発表・作品解説、質疑応答を行った。その後、同日 13時より1時間半、最終試験(口述試験)を行い、続けて14時40分から18時10分まで学位審査委員会を行った。

■審査結果

上記の審査経過を経て、学位審査委員会は全員一致で次のような結論に達した。今回提出された申請者の研究作品5点を含む学位申請論文は、本学大学院芸術学研究科の博士(芸術学)の学位を受けるにふさわしいものと判断される。

本論文は障害者問題を広く社会に位置付ける芸術活動の試みとして、非常に独自性が高く先駆的な研究であるとの評価が多く審査員からなされた。そして、本論文が主題とする、障害学の観点から芸術本来の社会的役割を再考することにより、健常者と呼ばれる人々の価値観に基づく偏った社会規範の中に潜む障害者問題への警報装置を鳴らす「障害者に表現主題を置く人間学的芸術」の社会的意義についても、審査員全員一致で評価した。特に障害者問題を「障害の医学モデル」として障害者自身に原因があるかのように定義してしまう社会的慣習に対して「障害の社会モデル」を提案することによって、むしろ障害者を安易に不自由な人として定義してしまう社会規範の方に問題があるという理論展開は新鮮であるとの意見があった。そして、その理論展開の基盤としてヨーゼフ・ボイスの「拡大された芸術概念」を再検証及び再評価している点も評価された。

総合的な評価としては本論文の主題の独自性と社会的意義を重要視すべきだとの意見が大半を占めた。さらに、本研究における作品である『健康規範眼鏡あります。』(映像作品)、『Delayed Echolalia』(パブリック・インスタレーション)、『Children of Down's Syndrome』(彫刻)、『類感魔法』(彫刻)、『Have a nice day』(写真・テキスト)も、本論文との関連性、必然性が納得できる内容と品質を保持しているという点でも評価が高かった。

なお、本論文の評価に当たっては、申請者の以下の活動も顧慮された。

2014年7月～8月

国際展、「2014巨済海美術祭－原型を探して」、巨済アーツセンター [プサン]

2016年6月または7月刊行予定(2016年2月15日現在)

学会論文「障害の社会モデル的立場から障害者問題を喚起する芸術の社会的効能」、障害学会『障害学研究第11号 Journal of Disability Studies 2015』, 編集: 障害学研究編集委員会, 発行: 障害学会, 発売: 株式会社明石書店

2014年度～2015年度

平成26年度 文化庁 次代の文化を創造する新進芸術家育成事業 東京藝術大学・金沢美術工芸大学による「障害者の芸術活動を支援する新進芸術家育成事業とその育成を芸術系大学において行う基盤構築のための調査事業」東京藝術大学採用新進芸術家

2014年11月

障害学会 第11回沖縄大会一般研究報告口頭発表 「障害者に表現主題を置く人間学的芸術の社会的意義」

2015年5月

国際展、「Asia Media Arts Festival (AMAF)」, 中央大学校アーツセンター [ソウル]

2015年11月

国際展、「国際交流女性現代美術展－アートの断面」, BankART Studio NYK [神奈川]

以上の審査過程により、学位申請者清野智子による博士学位論文(研究作品含む)は、東京工芸大学大学院芸術学研究科博士(芸術学)の学位に値すると認められる。